

労災事故の増加が続いています。

☆死傷災害は64名(11.3%)増加し628名となっています。



用語の説明は支部
ホームページ参照！

神奈川県労働局の集計によると、令和4年9月末(1月1日から9月30日)における県内の陸運業の労働災害発生は令和3年同期と比較し次のとおりとなっています。

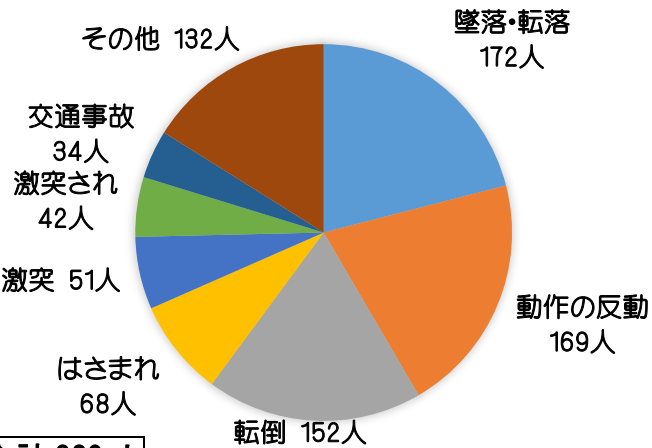
- ◇ 死傷災害は 道路貨物運送業では64名(+11.3%)増加しており、陸上貨物取扱業では47名(-19.7%)減少となっています。
- ◇ 死亡災害は 陸上貨物取扱業で2件発生しています。

死傷災害とは、死亡災害と4日以上休業災害を合計したものです。

1. 概況 (神奈川県内) 道路貨物運送業・・・(事故の型ワースト6+交通事故)

事故の型	墜落・転落	動作の反動 (腰痛等)	転倒	はさまれ・ 巻き込まれ	激突	交通事故	激突され	その他	合計
発生件数	153	127	112	43	32	32	23	106	628
対前年増減	-32	+17	+22	+6	+2	+7	-3	+45	+64
同上増減率	-17.3%	+15.5%	+24.4%	+16.2%	+6.7%	+28.0%	-11.5%	+73.8%	+11.3%

陸上貨物運送業全体



合計 820人

陸上貨物運送業全体の発生状況

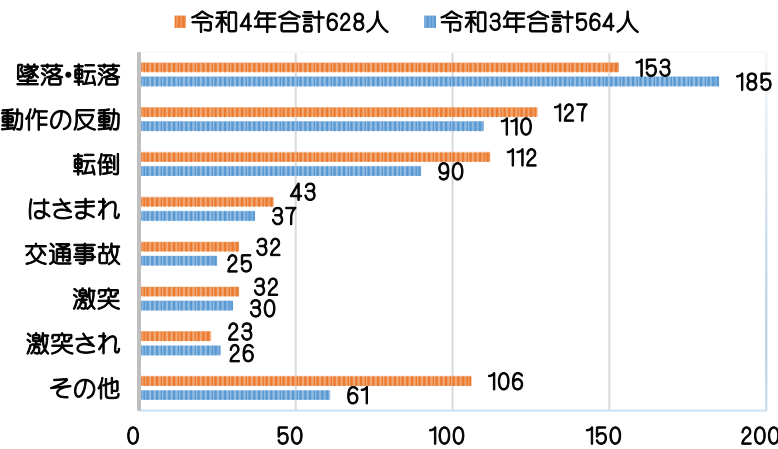
- ◎ 死亡災害
陸上貨物取扱業で2件発生。
- ◎ 死傷災害
 - ① 墜落・転落災害が18.9%減少し172名となった。
 - ② 転倒災害は5.6%増加し152名となった。
特に、道路貨物運送業で24.4%の増加となっている。
 - ③ 腰痛等の動作の反動が9.1%減少し、169名となった。

荷役作業を中心にあらゆる対策を講じて
労災事故を撲滅しましょう

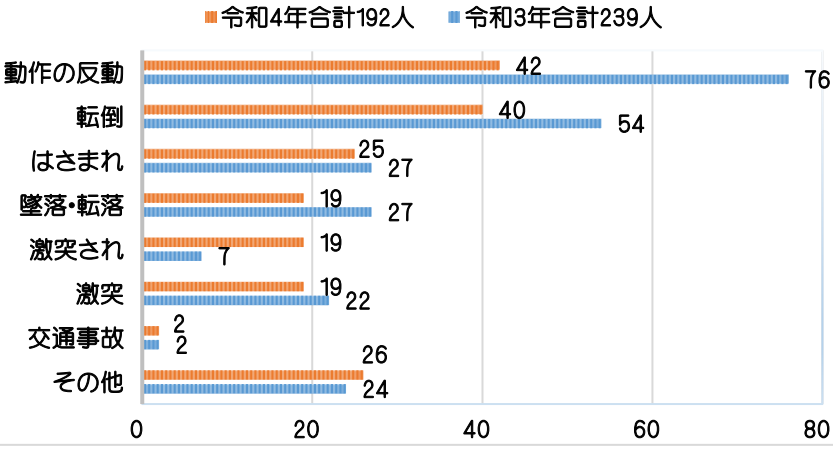
基本操作・
行動の励行を！

2. 各業種の概要

道路貨物運送業



陸上貨物取扱業 (貨物利用運送業等)



- ☆1 昨年同期に比べ+11.3% (+64名)増加して628名となっている。
- ☆2 墜落・転落が153名と相変わらず多く発生している。
- ☆3 転倒災害が+24.4% (+22名)と大きく増加している。

- ※1 昨年同期に比べ-19.7% (-47名)減少して192名となった。
- ※2 腰痛等の動作の反動が-44.7% (-34名)と大幅に減少している。
- ※3 転倒災害が40名と多く発生している。

3. 死亡災害発生概要 (陸上貨物運送事業関係)

陸災防神奈川県支部収集

番号	発生地	月 時刻	事業の種別 労働者数 職種	起 因 物 事故の型	発 生 概 要
1	横浜市	4月 13時頃	陸上貨物 取扱業 ～9名 作業員	荷姿の物 崩壊、倒壊	60歳代前半の作業員がフォークリフトを運転して倉庫から出庫作業中、出庫対象の隣のはい積み(1トフレコンバッグの4段重ね、高さ約4メートル)がもたれかかり運び出せない箇所を確認しようと下車した時、当該もたれていた3・4段目が崩れ落ち、下敷きとなり死亡した。
2	海老名市	6月 6時頃	陸上貨物 取扱業 50～99名 作業員	フォークリフト 墜落、転落	50歳代後半の構内作業員が物流施設内でリーチフォークリフトに乗り、パースに荷揃え中、荷を積載して後進時に高さ1メートルのプラットホームから同車ごとと落ち、同車ヘッドガードと床との間にはさまれ死亡した。

